

伊豆大島の



キョン



～もとの大島にもどすために～

伊豆大島には、もともと日本にいない「キョン」が、自然の中で増えています。キョンは昭和45年（1970年）に台風の影響で破損した東京都大島公園の施設から逃げ出したとされ、森の希少な植物や畑の野菜を食べるなど、いろいろな問題を引き起こしています。

キョンってどんな動物？

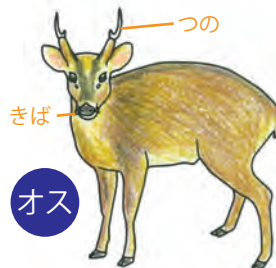
小さなシカの仲間で、外国からつれてこられた、「外来種」です。

もともと暮らしている国 中国、台湾 → 日本で増えているところ 千葉県房総半島、伊豆大島

食べもの 草、木の葉、木の実など

とくちょう 体は茶色、おなかは黄色っぽい色をしています。犬に似た大きな声で鳴きます。

体の大きさ



オス 体は茶色、おなかは黄色っぽい色をしています。犬に似た大きな声で鳴きます。オスだけに、角と牙があります。角は毎年はえかわります。

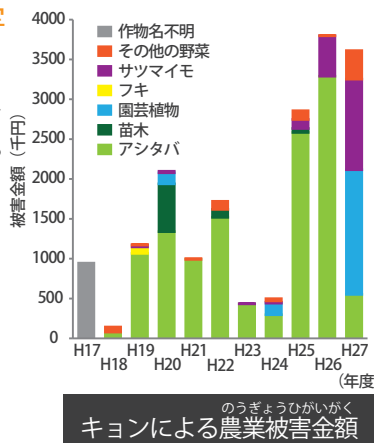


メス 1歳でオトナになり、子どもを産むことができます。

キョンがいると何がいけないの？

1 野菜などへの被害

畑の野菜はキョンにとって、おいしい食べ物の一つです。そのため、キョンは山から下りてきて、農家さんが大切に育てた野菜を食べています。



2 自然への影響

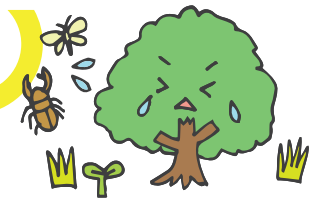
キョンは森の草や木をどんどん食べてしまいます。そのため、大島の珍しい植物が減っています。また、環境が変わり、もともと島に暮らしていた他の生き物たちも困っています。



山のなかで草を食べるキョン

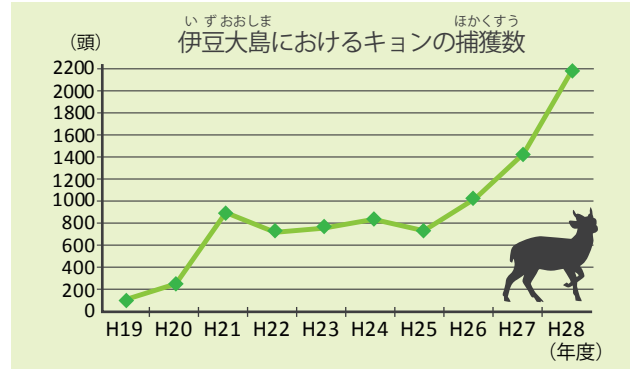


そのための対策が必要！



農業や森を守るためにキョンを捕まえています

大島にいなかったキョンが増え、いろいろな問題がおこっています。もとの自然にもどすためには、キョンを捕まえることが必要です。平成19年度から捕獲をはじめ、平成28年度には約2,200頭を捕まえました。最終的には、いなくする予定ですが、まだ捕獲は十分ではありません。



銃による捕獲

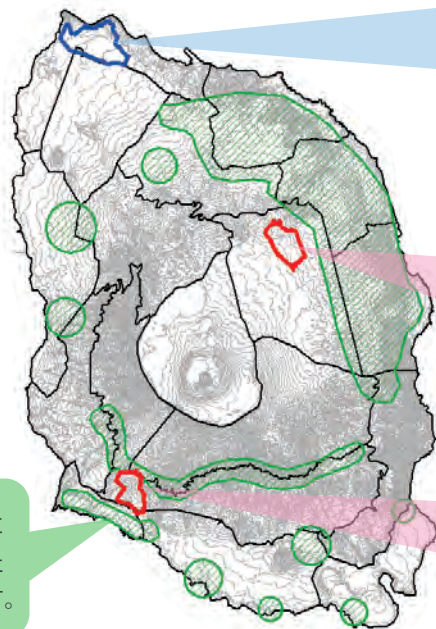
忍び狙

ワナによる捕獲

張り網 箱ワナ くくりワナ

平成28年度の取り組み

平成20年度から継続して実施しているワナや銃による捕獲を平成28年度も実施しました。また、平成28年度は野増地域や岡田地域、動物公園周辺で新たに柵を設置して、柵の内側やその周辺でキョンの捕獲を進めました。



高さ1mくらいの簡単な柵。キョンの行動を制限して、周辺に設置したワナに誘導します。



高さ1.5mくらいの頑丈な柵。森をぐるっと囲い込んで柵の中のキョンを捕獲します。

緑の範囲内はワナによる捕獲を実施したおおよその場所です。